

◆「手伝って」と言葉で伝えよう

1 対象児童生徒（対象学級）の実態 <ul style="list-style-type: none">・小学部知的障害単一学級1年（自閉症）・簡単な形や色の弁別はできる。・絵を見て、いくつかの物の名称を答えることができる。・iPad操作に慣れており、いろいろなアプリで遊ぶことができる。
2 指導目標 <ul style="list-style-type: none">・生活のさまざまな場面で、自ら「手伝って」と言葉で伝えることができる。
3 取組の中心となる教科・領域等 自立活動（環境の把握、コミュニケーション）
4 使用したアプリ、周辺機器 <ul style="list-style-type: none">・「ねえ、きいて」
5 指導の経過及び児童生徒の変容 <p>指導前は、援助を求めることが少なかったが、iPad操作時に音が出ないときに、「おい」と言って、担任に援助を求める様子が見られた。</p> <p>このため、「手伝って」という言葉で、伝えられるように考えて指導を行った。</p> <p>○指導期間 12月2日～1月24日</p> <p>手伝ってくださいカードと、iPadアプリ「ねえ、きいて」を併用して自立活動（個別学習）の時間に声に出して読む指導を行った。</p> <p>○指導開始時（12月2日）</p> <p>「ねえ、きいて」アプリで、「手伝って」や、「〇〇ほしい」などのことばを、iPadをタップしながら発声学習を行った。音声が出ることに興味があったようで、真似て発声をしていた。</p> <p>○指導途中（12月10日）</p> <p>iPadの音が出なかった際に、「手伝って」と伝えられるようになる。</p> <p>○現在の様子</p> <p>個別学習の時間以外でも、困ったことがあった際に「手伝って」と教員に伝えられる場面が増えてきた。</p> <div data-bbox="1315 860 1445 1014"></div> <div data-bbox="1267 1189 1445 1518"></div> <div data-bbox="146 1355 1204 1534"><p><言葉で伝えることができた場面></p><p>エプロンを脱ぎたい、上着のファスナーを上げたい、課題のひもとおしの向きをおしえてほしい、マジックのキャップを開けてほしい、など。</p></div>
6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等） <ul style="list-style-type: none">・「ねえ、きいて」は、カメラ機能で写真を撮り、カードを新しく加えることができるので、経験したことを取り込んで学習することで、生活につなげやすかったと考えられる。・場合に応じて、カードや言葉かけなどを工夫することで、コミュニケーションの機会を多くとることができ、本児からの発信の機会を多くとることができた。・個別学習の時間だけでなく、学校生活全般を通して指導を行うことで、実生活に生かすことができた。